

里本之坊に之りし今減りたるは小賦也
 九支那の行史に論解せし諸先王の多き事ハ億を
 以て并ふ一然也今そは海の思ふ我は
 されふあまのか翻釋の業は異なり一交統す
 とは是れに夫々再注の患より道より事更に供

一々編纂は之に真に先史子の言行如く秘座の
 建せ居るは官守の如道事者老舗より新業を以て
 を其の宥すたるより之を後傳の秘業論甚の終也
 庶幾は七年の病より其の艾を求め其起死回生此
 活術を傳へる

文政甲申年春二月
 故隨鷗海先生遺弟死活字板具預所
 京兆 五條橋通河事河西藥種屋

中澤權之介

